

# SICE 東北支部 55 周年記念学術講演会原稿見本 (副題)

Commemorative Annual Meeting of the 55<sup>th</sup> Anniversary of the Founding of SICE Tohoku Branch  
(Sub title)

○宮城 一郎 (宮城工大), 岩手 二郎 (岩手工大), 青森 三郎 (青森医大),  
山形 四郎 (山形工業), 福島 五郎 (福島情報研), 秋田 六郎 ((株)秋田)

○Ichiro Miyagi, Jiro Iwate, Saburo Aomori,  
Shiro Yamagata, Goro Fukushima, Rokuro Akita

キーワード: 多点計測(multi-point measurement), フーリエ変換(Fourier transform),  
回帰分析(regression analysis), 最適推定(optimal estimation), 雑音除去(noise elimination)

〒000-0000 仙台市青葉町 2014 宮城工業大学大学院工学研究科機械工学専攻 仙台研究室  
宮城 一郎, Tel: (000)123-4567, Fax: (000)123-4567, E-mail: ichiro@miyagitech.ac.jp

## 1. はじめに

この度は, 計測自動制御学会東北支部 55 周年記念学術講演会に発表をお申し込みいただき, 誠にありがとうございます。講演原稿は, 以下の作成要領に従ってご準備下さい。

原稿は, A4 二段組みで, 2 または 4 ページとし, ページ番号は付けないで下さい。マージンは, 上下は各 2cm, 左右は各 1.5cm として下さい。また, 原稿は, PDF ファイルでの投稿をお願い申し上げます。

## 2. 題目等

本見本を参考に, 以下の項目をご記入下さい。

1. 邦文題目(14pt ゴシック体, ボールド, 行間 18pt)
2. 英文題目(12pt, 行間 16pt)
3. 和文著者名および所属略称(12pt, 行間 16pt) (登壇者に○を付ける)
4. 英文著者名(10pt, 行間 12pt) (登壇者に○を付ける)
5. キーワード(10pt, 行間 12pt)
6. 代表者連絡先(10pt, 行間 12pt) (記載事項は見本を参照)

## 3. 本文

### 3.1 文章

本文の文章は 9pt, 行間 14pt 程度として下さい。また, 口語体とし, 当用漢字およびかなを用い, 新かなづかいによるものとします。外国語はカタカナまたは言語のままとします。

用語はなるべく文科省または JIS で制定されたものを用いて下さい。また, 単位は国際単位(SI)を用い, 数字はアラビア数字を使うものとします。量および単位記号(ローマ字またはギリシャ文字)はなるべく JIS で制定されたものを使用することとします。

### 3.2 脚注

脚注は, 本文の下に横線を引き, その下に記入して下さい。記号はページ毎に\*印を使うものとします。

## 3.3 数式

変数名は, 基本的にイタリックとし, 式番号は式の右端に付して下さい。

$$\frac{\partial u}{\partial t} + u \frac{\partial u}{\partial x} = -\frac{\partial p}{\partial x} + \frac{1}{R_e} \frac{\partial^2 u}{\partial x^2} \quad (1)$$

## 3.4 図表

図表は, 基本的には計測自動制御学会論文集の書き方に準拠します。図の表題は図の下に, 表の表題は表の上に付けます。表題は, 和文と英文の両方で書くのが望ましいが, どちらか一方でも構いません。印刷の都合上, 図表は白黒またはグレースケールにして下さい。例を図 1 に示します。

## 4. 文献の引用

### 4.1 形式

参考文献のリストは, 本文の末尾に纏めて書き, 次の形式によるものとします。

4.1.1 雑誌のとき 連番) 著者: 論文題目, 雑誌名, 巻-号, 始ページ/終ページ (年)

例:

- 3) M. Yoshizaki, H. Takeshita, M. Ohsawa and Y. Saki: A frequency domain hypothesis for human postural control characteristics, IEEE Eng. In Med. and Biol. Magazine, 11-4, 60/64 (1992)



Fig. 1 Visualization result with adaptive colormaps.

**4.1.2 単行本のと き** (連番) 著者: 書名, 始ページ/終ページ,  
発行所名 (年)

例:

- 4) 杉山守弘(編): 両半球の神経心理学, 234/236, 朝霧出版  
(1991)

## 4.2 引用

引用箇所には文献番号を右肩に小さく記入して下さい。

例:

神経系の遠心性コピー情報<sup>1)</sup>は、ここでは認められないとい  
われている<sup>2,3)</sup>。

## 5. おわりに

細かい書き方は、計測自動制御学会論文集に準拠して下さい。

## 参考文献

- 1) 杉山守弘(編): 両半球の神経心理学, 234/236, 朝霧出版  
(1991)
- 2) M. Yoshizaki, H. Takeshita, M. Ohsawa and Y. Saki: A  
frequency domain hypothesis for human postural control  
characteristics, IEEE Eng. In Med. and Biol. Magazine, **11-4**,  
60/64 (1992)
- 3) 笠間健, 朝比奈敏之, 吉田崇, 辻岡三郎: 脳波を用いた 3  
次元運動計測システム, 計測自動制御学会論文集, **19-12**,  
997-1003 (1983)